

## 平成 29 年度 第 1 回 長野市立博物館協議会 議事録

日 時 平成 29 年 6 月 13 日(火) 午後 2 時 00 分～午後 4 時 15 分

場 所 長野市立博物館 1 階 教室

出席委員 立岩会長・宮下副会長・相澤委員・浅倉委員・倉石委員・東福寺委員・二星委員

### 1 開会

### 2 委嘱書交付

### 3 あいさつ

### 4 委員紹介・職員自己紹介

### 5 正副会長互選

会長に立岩委員、副会長に宮下委員が決定

### 6 正副会長あいさつ

### 7 協議事項（議長 立岩会長）

#### （1）平成 28 年度事業報告（細井係長・畠山係長・前澤主事）

（立岩会長）「この件について、何か質問ありますか。」

（倉石委員）「色々な工夫をされていて、すごいと思いながら拝見した。入館者数もそれなりに確保されている。その上で、1年間やってきて評価できた点やうまくいかなかったことなどはなかったのか。」

（立岩会長）「今まで1年間やってきた中で、どうか。こんなところが問題あった、苦労した、など。」

（千野館長）「本館でいえば、パートナー制度が軌道に乗り、学校見学などは学芸員がさほど関与しなくてもよくなり、その分の余力が出て来ているが、毎年同じ企画をやっていたりと、事業がマンネリ化してきている。スクラップアンドビルドが必要だと思う。」

（立岩会長）「具体的には、何かありますか。」

（千野館長）「その反省もできていないということかもしれない。」

（前澤主事）「信州新町美術館でいえば、4月から市立長野高校美術部の作品の展示をし、高校生や中学生に広報した。高校生は来てくれたが、中学生が来ない。こち

らで意図した層が来てくれなかった。チラシやポスターを送るだけではなく、もう一步アクションが必要だった。」

- (立岩会長)「ポスターを置いて欲しいと言った時、受け入れてもらえたのか。」
- (前澤主事)「送るだけになってしまい、実際に貼ってもらえたのかまではわからない。」
- (立岩会長)「先生も忙しいし、受け入れてもらうのは大変だと思う。頑張っ欲しい。」
- (畠山係長)「信州新町化石博物館は、先ほどマンネリ化という話があったが、本館ほどパートナー制度が浸透していないため、職員がワークショップなどをやっている。そのため、マンネリ化してしまう上、準備を毎回することになり、疲弊してしまう。そこで、事前にお膳立てをして手をかけない『いつでもワークショップ』を行った。昨年度は、子ども2～3人に1人は参加したことになる参加者数となった。土日の決まった日だけ、という形よりも効果があった。今後はメニューを増やしてやりたい。」
- (細井係長)「マンネリ化もそうだが、新しい事業をしたときにうまく周知できない。職員が講話をしている『ほんものゼミナール』は、話の内容は変わっているのだが、参加者数が減っている。『教員のための博物館の日』は、夏休みに先生の研修と重ならないように、研修に近い日にやると、なかなか参加者が少ない。情報を受け取った先生が、どうすれば参加しやすいかを考えなければならないと思う。今年は恐竜展にあわせて行ってみたい。」
- (立岩会長)「マンネリ化、事業周知問題と出たが、委員から意見はありますか。こうやったら良い、とか。」
- (相澤委員)「学校が1割強、健闘している。無料を抜くと1万5千人ほどだが、ワクワクするようなものが必要と思う。ワクワクするようなものがないと、それ以上、5万人とかは難しい。学芸員さんが頑張っているのはわかるが、絞ってやっていくしかないのではないかと。地元では、博物館の活性化について今年も要望が出ている。ふれあいまつりで博物館にみんなで来ようという意見もある。無料になる敬老の日も無料だから来ているんだ、と考えるのではなく、無料だから利用しよう、としていっても良いのでは。」
- (立岩会長)「地元の身近な人は、いつでもいけるということがあるから、来なかったりする。そういう利用もよいのでは。館長と話してほしい。」
- (宮下副会長)「県立歴史館は、(専門の学芸員が)歴史しかないが、市には歴史、自然、民俗までいる。報告の際、担当ごとだったが、3者連携というのもマンネリ化打破には良いのではないかと。例えば、繭玉石、川の石とかについて自然・民俗の職員が連携した企画とかができるのでは。こういったことは、単独分野の館では難しい。そんな切り口を考えてみては。」
- (立岩会長)「中でのコミュニケーションを良くしていただいて。東福寺さんはいかがですか。」

- (東福寺委員)「私はパートナーでもあるので、パートナーとして見させていただいた。『教員のための博物館の日』は、去年は人が来なくて午後が暇だった。一昨年は割りと来てくれた。去年は宣伝不足だったのか、何かと重なったか、とみんなまで話したが、ちょっと惜しかったと思う。」
- (立岩会長)「担当はいかがか。」
- (陶山主査)「宣伝が足りないこともあるが、先生が忙しいみたいなので、コミュニケーションを取っていこうと思う。今年は恐竜展と連携して、敷居を低くしようと考えている。」
- (相澤委員)「学校は対象が決まっているのか。」
- (陶山主査)「3～4年生が多い。」
- (相澤委員)「私は信州新町の小学校で3年生に教えた。昔の道具については教科書にあるが、先生は自分でも使ったことがないからスルーしていた。需要はあると思う。先生が一番知りたいのではないかと思う。」
- (立岩館長)「こういうときは『先生が忙しい』になる。それに流されてしまうのは危険かもしれないが。」
- (浅倉委員)「やる気のある教員も多い。社会科は自分で授業をつくる人が多い。社会の先生、理科の先生は比較的熱心。(教育大学の授業では)実践力を子どもに身につけさせる授業案を出させているし、博物館から提示すれば、先生も喜ぶ。教科書のここと連動していますよ、とか。」
- (倉石委員)「安曇野と長野では規模などが違うが、安曇野ではこちらから持っていく出前授業をやっている。それも手かな。このスタッフに対する長野市の規模では難しいかもしれないが、こちらから提示すると良い。」
- (浅倉委員)「パッケージは手。」
- (宮下副会長)「実物、第一次資料を持っているというのが学校との違いであり、博物館の強み。」
- (立岩会長)「二星さんは？」
- (二星委員)「宣伝というと、博物館に幟があったり、チラシなどが高専にまで届いていて良いが、生徒はSNSとかはよく見るという。博物館でもフェイスブックやツイッターをしているが、更新の頻度はどれくらいか。」
- (陶山主事)「フェイスブック、ブログなどは最低でも週一で更新している。手仕事などは大人の女性対象なので、SNSを見て来場する方も多い。」

## (2) 平成29年度事業計画(細井係長・畠山係長・前澤主事)

- (立岩会長)「この件について、何か質問ありますか。」
- (浅倉委員)「地域連携として、蜜蝋の提供を受けたとあるが、この地域で採れるのか。」
- (細井係長)「松代の方で採れたもの。」

(浅倉委員)「江戸時代から採られていたのか。」

(細井係長)「そういうものではない。」

## (2) 博物館再編に係わる諸課題 (千野館長)

(立岩会長)「公園整備と一体でやった時、博物館の方にも補助金が出るのか。」

(千野館長)「わからない。」

(立岩会長)「別物のような気もするが。」

(千野館長)「調整が必要だと思う。」

(相澤委員)「厳しい面もあって、やれることをやるしかない。今は木の伐採などの整備をしている。市議も来て、要望が出されている。」

(千野館長)「公園の方で絵は出してもらっているが、具体的な事業としては未だである。」

(立岩会長)「ハードとソフトの両面から行くのか。」

(千野館長)「大きく変えるのは展示スペースと収蔵スペース。」

(立岩会長)「それだと公園とは別の気もする。」

(千野館長)「市長は博物館が奥まったところにあるというのが念頭にあるようだ。」

(立岩会長)「博物館に魅力があればと思うが。」

(千野館長)「そのとおりだと思う。」

## ア 資料収集方針の策定について (原田係長)

(浅倉委員)「『自然・民俗は同一の資料がある』とあるが、上越の総合博物館では、同一の農具があったが、調査してみたら地域による違いがあることがわかった。重複していても興味深いことがわかるのではないか。」

(細井係長)「とても難しい問題。それは、私も調査して実感している。しかし、今後活用してくれる人がいるだろう、と今後のことに無自覚な状態で、受身的にもらってきていた。寄贈の依頼があって、それをもらいにいくことしかできなかった。これからは、どういう意図をもって集めるかを明確にして集めようということ。重複した資料については廃棄をするということではなく、活用を考える。」

(立岩会長)「難しい問題だ。」

(倉石委員)「『地域の衣食住・生業を知る上で有効な家』とあるが、どのような家なら有効なのか。その判断はどうするのか。すごく難しい問題で、時系列はどうなるのか。上層の家なら有効なのか、上・中・下それぞれの階級の家のもものも集めるのか、といったことを聞きたくなる。聞いてもいいものか。」

(樋口主事)「その一文を入れたのは、そういったことを判断するだけの情報をきちんとそろえた家だったかが、これまであやしかったため。情報があることが有効な家の条件でもある。上層の家なら有効と考えているわけではない。これまで

は、資料を持っていた家が上層と判断される家なのか、ということを考える  
ことができなかった。そのための情報を得ることもできなかったからだ。そ  
のため、この方針は、時代や範囲の検討を行うための基盤となる情報を得る  
ために作った。」

(倉石委員)「その判断は、誰がするのか。」

(樋口主事)「結局のところは学芸員になると思う。」

(倉石委員)「学芸員個人の知識の範囲になってしまわないか。」

(樋口主事)「この方針を作ったからといって学芸員の考えや判断が大きく広がるわけでは  
ないが、議論できるようにということ(この方針を)作った。これまでは、  
電話を受けた学芸員が個人の見解で判断するだけだった。」

(倉石委員)「すごく難しい問題だと思う。更に加えて言えば、今のものをどう扱うのか。  
今個人で使っている鍋は？そういったものは、今まで集められて来なかった。  
これまでは、使わなくなって依頼がきたら、『そういえばそういうものは収集  
されていない。』という感じで集めていたと思う。現在、民俗学会では『当  
たり前を検討すること』、『日常をどうとらえるか』という問題が注目されてい  
る。今の日常的なものを失わないことも重要な視点だと思う。」

(立岩委員)「ここですぐ結論が出る問題ではないので、考えて欲しい。」

#### イ 豊野資料収蔵室の整理状況について(細井係長)

(浅倉委員)「なぜこんなに発動機が集まってしまったのか。」

(細井係長)「元々はりんご栽培に関わるものとして持っていたが、職員に個人的に好きな  
人がいて、集めてしまった。」

#### ウ 中条歴史民俗資料館について(千野館長)

質問なし

#### エ 信州新町、ミュゼ蔵について(千野館長)

質問なし

#### オ 「モノツクリ」コレクションの県文化財指定について(樋口主事)

質問なし

#### 8 その他

相澤委員より、更北地区住民自治協議会による幟と冊子作成の報告

#### 9 閉会